



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 10 号

発行 岡村病院
編集 歩 (あゆみ)
編集委員会
平成 6 年 10 月 15 日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



「漁 (すなどり)」
友行満俊氏画

チャレンジ3

CHALLENGE・3

1

私たちは、いつも「おもしろ」と
「積極性」をもって患者さんから愛される
病院づくりにチャレンジします！

2

私たちは、高度な医療技術と専門性をも
って、地域社会からより一層信頼される
病院づくりにチャレンジします！

3

私たちは、一人一人が専門家としての自負
と責任をもち、明るく、さわやかで発展的
な病院づくりにチャレンジします！

今月のことば

報告・連絡・相談 (ホウ・レン・ソウ)の徹底

病院が新しくなって、仕事の内容や事務の流れも随分変わりました。新しい人も増えました。また、最近は医療制度の変更もよくあります。

ちょっとした報告や連絡のぬかりが、大きなミスやロスにつながる場合が少なくありません。

もう一度、お互いの仕事の中で報告や連絡のぬかりがないか見直してみましょう。改善すべき点があったら、遠慮なく話し合っ、よりよい方法を見出しましょう。

トラブルや苦情があった場合は、一早く関係部署に報告・連絡をして、よりよい善後策を講じましょう。「ホウ・レン・ソウ」を徹底して、明るい職場をつくりましょう。

ジェントルマン



院長・心臓血管外科医長 岡村 高雄

窓から吹き込む風が湿気を運んでくるような気がする。今年の夏は本当に暑かった。去りゆく夏と共に命日が近づくと思い出すことがある。

今から25年程前であったろうか、父は上京の折に私を食事に誘ってくれた。ウェイターが水を持って来た後に「もうお前も大学生だから、これからはジェントルマンにならなくてはいけないね」と大きな目で見つめながら言った。私には唐突のように思われ「はい」と答えるのが精一杯であったように憶えている。家で普通に話しをする父とは違った表情であったので驚いた。

病院と医師会の仕事で多忙な父であったが、年に数回は上京の折に足を運んでくれて食事に誘ってくれた。4人1部屋の寮生活をしていた私には豪華な食事にありつけるチャンスであった。父にとってのステーキハウスは戦前からあるSuehiroであり、ここに連れてきてくれたのであった。

最近、以前父が参加していた医者仲間の会に

出席させてもらっている。80歳を過ぎてもお元気な大先輩も出席され、食事をしながら世間話しをするだけであるが、若僧の私に暖かく声をかけてくれる。私は小さくなり、ただ会話を聞いているだけである。しかし、ちょっとした会話にも父の時代の雰囲気と、私の知らなかった父の貌に出会えるような気がする。そんな人達の賑やかな光景を見るだけで幸せで嬉しい。誘っていただいて、ありがとうと感謝したい。

父にとっていろいろな人とさまざまな時間を過ごしてきた病院も、外観からは以前の面影はもうない。私も少しゆっくりと過ごせるようになった。机に向かって、ふと横を見ると父の写真がすぐ見える。「ジェントルマンでやっているか」と話しかけてくるような気がする。9月1日になるとあの日の言葉が思い出される。一年は本当に短い。先行く人は色々なものと良き思い出を残してくれる。私達は先人の残した思いにどれだけ答えられるのであろうか。

もう秋がそこまで来ている。

新病院建築紹介(第6回)

ケーブルテレビと有線放送

病気によって、又病状により、入院生活は退屈な事があります。この退屈さ、気分の減った時等にテレビは大変有難く、我々の生活の必需品となっております。この為、今までは入院と共にテレビを家から持って来るか、貸しテレビをほとんどの方が借りておりました。しかし、この様な事は患者さんにとりまして不便な事がありますし、又我々治療する側にとりましても、大部屋の各ベッドに大きいテレビがありますと診療、治療の妨げになる事が多くありました。この為、本院では大阪のKCBという会社にお願ひして全国で初めて病院の為のカード方式に

よる小型の液晶テレビを開発して、すべての大部屋のベッドサイドにテレビを備えつけておく様にいたしました。約1年間をかけてテレビのアームの長さ、耐久性等を検討し完成させました。小型ではありますが、映像は鮮明ですし、ベッドに横になったままで御自由な方向でテレビを見る事が可能ですし、夜間消灯後もイヤホンでお使いになれば他人の迷惑にならずに御自由にご覧になる事が可能となっております。個室には普通のテレビを設置しておりますが、コンバーターを御希望の方には貸し出してありますので、ケーブルテレビのお好きなチャンネルを見る事が可能となっております。

すべての個室では有線放送がステレオでお聴きになれる様にもなっております。330チャンネルと数多くの選局が可能ですので、お

(次頁下段へつづく)

狭心症、心筋梗塞

院長・心臓血管外科医長 岡村 高雄

次第に寒い季節となりつつありますが、寒さと共にふえる病気に狭心症、心筋梗塞があります。

(1) 狭心症、心筋梗塞とは

心臓は1分間に約60~70回全身に血液を送りだし、働きつづけております。この心臓の筋肉を栄養する血管にコレステロール等がたまって起こる病気が、狭心症、心筋梗塞です。車で例えば、心臓がエンジン、血液がガソリンで、栄養を送る血管が、ガソリンをエンジンに送る管であります。つまり、エンジンにガソリンを送る管が細くなると、ガソリンがエンジンに供給されず、エンジンは十分に働けなくなり、ガソリン不足のため、胸が苦しいという様な症状が起こってきます。これが狭心症です。さらに、この管が完全につまるとエンジンが動かずに、場合によっては止まってしまうのが心筋梗塞です。

(2) こんな人が狭心症、心筋梗塞になりやすい

血液型で言うとA型人間がその他の人々よりも数倍なり易いと言われております。A型人間はよく言えば仕事一筋で、負けず嫌いで努力家のタイプが多く、この様な人はストレスが多く。これが原因となって狭心症、心筋梗塞になり易くなるのです。

(3) こんな症状に注意

これから寒い時期に朝起きてトイレに行った時、或いは通勤中に寒さに当たった時等に胸を圧迫する様な症状が出現すれば要注意です。人によっては首がしめつけられる、左肩の方が痛む等の症状もあり必ずしも胸の痛みのみではありませんので、御心配の方は相談下されば宜しいかと思ます。

(4) 診断と検査

この病気に最も重要な診断方法は、まず患者さんの訴えです。一見単純に思えますが、自覚症状について詳しくお話しをしていただくと、ある程度の診断は可能となります。最終的な診断は心臓カテーテル検査により、心臓の血管を造影する事で100%の診断が可能となります。全んど痛みのない検査ですし、又、今後の治療にとって現在では欠くことの出来ない検査となっています。

(5) 治療

以前は狭心症、心筋梗塞になると仕事も旅行も出来ないという様な時代もありましたが、現在では優れた薬、細くなった管を風船でふくらます方法、バイパス手術等、数多くの治療が開発されておりますので、余り悲観的にならず、十分元気に過ごせる時代となりましたので、御安心下さい。

(前頁より)

好きな音楽で病気が少しでも早く治される様にして思っております。病院内全体に有線放送の音楽を流して、少しでもリラックスしていただければと考えております。お気付きの方がいらっしゃるかどうか分かりませんが、外部より病院に電話をかけられた方が取りつぎの間に流れている音楽も有線放送であります。一度注意して聴いてみて下さい。



液晶テレビ

看護これから(3)

副総婦長 谷脇美千恵



日常看護の中で、看護者が患者さんと言葉を交わすことは最も基本的なことであり、大切な仕事の一部です。看護者の言葉は、使い次第では大変怖いものになります。「何気ない一言が、患者さんに予想以上の大きな影響を与えた」経験を持っている方もいると思います。

私は、患者さんの部屋を訪問するとき、看護者と違ってゆっくり患者さんと会話することができます。初対面の患者さんには自分が何者で、どういう目的でここに居るのか、患者さんに気持ちよく入院生活をしていただく為にどうしたらよいのか、といったお話からさせていただきます。そうすると、患者さんも心配に思っていることを話してみよう。先に受けた説明の意味を聞いてみようと会話が進みます。ある時、私は患者さんの質問に答えて、分かってくれたと思って病室を出たのですが、全く違う理解をしてふさぎ込んでしまわれ、怖い思いをしました。

看護者にとって言葉をトラブルを避け、有効なケア言葉として使うには、①言葉を患者と共通の意味を持って、同じイメージを心の中に描けるように使うこと。②日頃から患者さんと良いコミュニケーションが持てる対人関係を作っていること。③看護者は言葉使いの訓練をし、患者さんが受けて気持ちの良い言い方の数を増す等の努力が必要です。例えば「煙草は吸ってはいけません」より「煙草は吸わないほうが良いのですが、あなたは何本まで減らせますか」とか「ちょっと待って下さい」より「今、患者さんの〇〇をしていますので終わり次第お伺いします」と言われる方がソフトですし、「それ位なら～」「できるかもしれない」「待てないことはない」という気持ちになります。ですが患者さんの治療に関わることには曖昧な表現ではなく、毅然とした態度で「ダメです」と注意しなければなりません。

患者さんとの言葉の行き違いに悩んだ時、振り返って考えてみますと、看護者の言葉が足りなかったり、使い方を気をつけなければならないことはありますが、患者さんは言葉に怒ったのではなくて怒りの陰に不満や不安、いらだち

が隠れていることに気付かされることもあります。

看護者の言葉は患者さんの心身両面に影響を与え、立派なケアになります。看護者が言葉の使い方を上達させるためには、患者さんとのやり取りから学び、教えてもらうことです。

給食部だより

入院時食事療養の新設

管理栄養士 森光眞佐子



今回の健康保険法の改正は、50年ぶりの抜本的改革をとまうものといわれ、従来とは異なった、社会保険制度そのものが変わる内容となっています。

食事については、入院時の食事にかかわる給付の見直しがされました。食事は療養の給付から除外され、入院患者の負担の公平化や医療保険の給付の重点化などから「給食費の一部自己負担」が導入され、「給食費」が「入院時食事療法費」に改められ、そのよりどころになっていた「基準給食制度」が廃止されました。

これによって、入院時の食事についての負担額が1日につき600円になります。

同時に適時適温（名称、特別管理）、多様なメニューの提供、あるいは食堂における食事の提供というような良好な環境を計画する事、そのほか栄養・食事に関する指導の評価が行われました。

この改正を受けて岡村病院給食部におきましては、10月1日より特別管理、選択メニューについて下記のように院内に掲示し、特別管理の充実、選択メニューの本格的導入を行いました。

〈当院の給食について〉

- (1)入院時食事療養に関する特別管理について
特別管理の届出を行い、管理栄養士によって管理された食事を適時適温で給食しています。

朝食 8時 昼食 12時 夕食 6時

- (2)選択メニューについて

普通食（特別に食事療法の必要のない食事）の患者食には複数のメニューを準備していますので好みの食事を選択していただけます。

実施日 毎週金曜日昼食・夕食

なお、当サービスに関しては、特別な自己負担はありません。

此の病院に入院して

岡村 幸枝（4F）

交通事故で私が或る病院から此の岡村病院に転院して来たのは、五月の連休明けの日でした。先ず感じた事は、従来の病院とは全く異なっていることでした。三月にオープンしたと言う五階建の美しい外観もさる事乍ら、内装の色彩ひとつにしても、見た目に柔らかく、楽しい雰囲気をつんだんに味あわせてくれ、病む人の心になにか安心感を与えてくれます。訪れるお見舞客の誰もが、まるでホテルの様ですネ！と言われます。通路の壁のところどころに掛けられた画も、心を和ませてくれ、患者に対するキメ細やかな心くばりがうかがわれました。

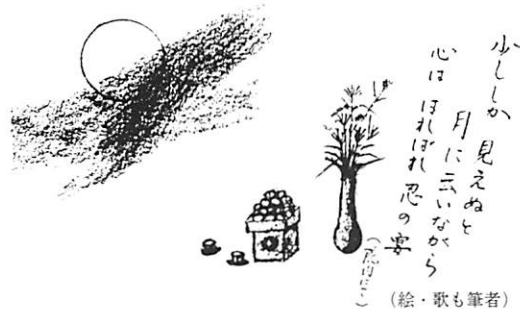
院長先生が「歩」8号に書かれていた木口小平論を読ませていたとき、他の病院に無い自由な雰囲気の中で、患者さんは皆、心安じて療養が出来るでしょう。

また、看護婦さん達の優しい労りや言葉が、どんなに嬉しく心を慰めてくれる事でしょう。私もめまい、ふらつき、頭痛、手足の痺れに悩

まされ寝たきりの毎日でした。そんな苦しみの中で同室の患者さんのあたゝかさや、看護婦さん達の優しい言葉にどんなに慰められたか知りません。

単調な病院生活の中で最大の楽しみは食事の時間です。三度の食事にしても本人の嗜好に合わせて下さり、また毎月せんたくメニューを盛り込む等、たのしみ乍ら栄養のとれる様な気がかいに、栄養士さんをはじめ給食の方々の御苦労が偲ばれます。

先生方の病気に対する研究熱心、優しい看護婦さん、いつも明るい笑顔で私達をたのしませてくれる可愛い学生さん達と共に、快方へ向け今日も物理療法に、運動にと頑張っています。此の様なタイプの病院が多く出来ることを望みます。それにつけてもこの病院が新しい時代の先駆けとしてスタッフの皆様頑張っていて欲しいものです。



(絵・歌も筆者)

〈病むということ〉

心臓病になってから10年余、ジプシーのごとく様々な病院を歩きました。そして手術、先生を心から信頼していました。けれど診療を受けながら、何か不安、どこかちがう気がし始めて、心が落ち着かない。障害を持つということも心も病んでいるのです。気持ちはいつかあきらめのような、またフテクサレたような、「まあこんなもんか、命の終わる日が来れば仕方ないわ」というような思いの日々を過ごしました。

〈医療を受ける者〉

先生にはお話を聞いていただきたい。けれど

病院・人・出会い

宮村 絹代

多忙な先生は背中ではしか聞いてくれない。看護婦さん達も先生についていつもピリピリして、患者との会話は避けて通る方が賢明なのです。何事にも、納得しようがしまいが先生の言葉には絶対服従です……。「異常なし」の一言

〈医療者との対人関係〉

ある日、急に体調が悪くなって救急車に乗せてもらいました。運ばれた所がこの岡村病院でした。何もかも違うんです。情愛の込めた先生方、いつも笑みを浮かべて心ゆくまで患者の相談にのって下さり全力で治療をして下さるのです。看護婦さんは、冗談を言って笑いながら、でも目は真剣に患者を見つめていてくれるのです。安心です。本当に心が安らぐのです。

〈自分との闘い〉

心臓にペースメーカーを入れているのを忘れるくらい安らいでいても苦しい日々もあり、落

ち込んですくいようのない自分をもてあました事もありました。自分と時との闘いです。この病院に来て、心より信頼して、自分の全てをまかせられるという安心感さえ持てば、自然に気分も楽になって来ました。その上、最高の機器と医術にも護られている実感で。

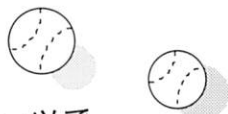
〈心の家族、心の故郷〉

外観は立派な病院で中味は（誠におこがましい言い方ですが）ファミリーです。先生は父、婦長さんは母。他のナースの皆様方は姉妹。患者は子ども。年の上下は関係なく。私は岡村ファミリーの娘(?)。傷ついた体を元に戻してもらい、疲れた心を癒してもらい、明日、私は岡村ファミリーを巣立ちます。元気な妻として、やさしい母として、私を待っていてくれる家族の所へ帰ります。又いつか疲れはてても帰って来られる岡村ファミリーのある事を心の糧に。また、思い切り羽ばたいて参ります。

患者の皆様、お先に退院します。皆様方の一日も早い全快を願いつつ、お大事に、頑張ってください。



ひろば

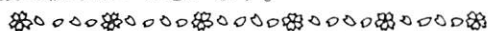


スポーツで 感動したこと

事務 竹部美和子

今までで、スポーツで感動したことと言えば、自分が実際に試合に出場して、相手と戦って勝った時や、優勝した時でした。自分がしたことはないスポーツを観ていて、あまり感動したことはありませんでしたが、最近、友人が所属するソフトボールのチームが日本リーグで5年連続の優勝を決めました。昨年と今年、高知が第3節の会場となり、仲間と応援に行きました。最終的な結果は12勝2敗。本当なら目の前で優勝する瞬間を見たかったのですが、今回は紙面と友人からの電話でした。でも、苦勞して練習をしていたのを知っているので、今年の優勝は深い感動を覚えました。他の企業チームとはちがう、ソフトボール好きの人間が集まったクラブチーム。5連覇というすばらしい成績をもって、

また来年の日本リーグも「勝って当たり前ของทีม」のままで、頑張ってくださいと思います。また、新たな感動を私達に与えてくれるよう、応援し続けたいと思います。

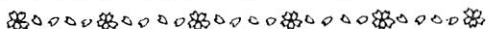


スキューバで 発見したこと

看護婦 和田 光代

今年の梅雨は、あまり雨が降らず晴天が続いたので、6月末からスキューバを習ってます。その後、台風などの悪天候の為に予定通りに潜れず、苦勞しても懲りずに海に通い海中へ潜ってみると、小魚やサンゴ、イソギンチャクは、想像以上に美しく、本当に楽しい時間を過ごします。

ただ、そんな時でも職業柄か人間の体は、うまく出来ていると思います。まず水深が増すと初めに耳に痛みを感じます。水圧の為に鼓膜が内側に押されている為です。そんな時は吸った空気を口と鼻をふさぎ、口から鼻をかむ要領で押し出すと元に戻ります。少々の深さ調整なら呼吸で行えます。人間の肺は、呼吸だけでなく浮きの役目を果たしてくれます。特別な事でないけれども、実際に体験すると人間が単純な為か、人間の体は上手に創られていると、海だけでなく自分の体でも感動します。ただスキューバは、危険がつきものなので注意して行動し、事故のないよう配慮し、これからも楽しい発見を増やしていきたいと思っています。



これからの目標

看護学生 橋田 郁

私が岡村病院に入って、6ヵ月たちました。この6ヵ月には、いろいろつらい事もあって何度もやめたい！自分は看護婦には、むいてないのではないかと思ったこともありました。

けれど、今は少しずつ仕事にも慣れてきたし、楽しく仕事をやれています。

仕事と勉強との両立は難しいけれど、がんばりたいと思います。そして、進学できるように一生懸命、勉強したいと思います。

看護婦寮新築

現在、大川筋にある学生寮の東側に鉄筋コンクリート5階建の看護婦寮が新築されます。

規模 鉄筋コンクリート5階建・1階は駐車場
オートロックシステム

個室 16室(各室キッチン・バス・トイレ・冷暖房付)

収容人員 16名

完成予定 平成7年3月末



完成予定図

院内慰安旅行

金沢・北陸の旅

今年の院内慰安旅行は第1班(9月23日~25日)と第2班(9月30日~10月2日)に分かれ、金沢・北陸の旅でした。参加者は30名(各班15名)私達第1班は9月23日(金)、PM8:30高知港集合、あいにくどしゃぶりの雨、船の揺れがひどくならないことを祈りながらの出発でした。大阪港から目的地までバスで約5時間という長旅でしたが、一瞬一瞬を目に焼きつけ、思い出深い旅にしてみました。

特に心に残った所は、2日目に行った東尋坊です。断崖絶壁、そこの岩場から海を覗きこむと、すいこまれていきそうなほど目のくらむ高さです。そして日本海から吹き上げてくる潮風を体いっぱいあびて、とても充実した旅行になりました。

帰りは開港したばかりの関西国際空港から、思い出とお土産をたくさん乗せて無事帰って来ました。(事務 山本由紀)



金沢(兼六園にて)

ニューフェイスです。ヨ・ロ・シ・ク!!



高橋 里恵さん
看護婦
倉敷中央高校専攻科卒
(高知市鳥越)



小川 郁子さん
看護婦
高知中央高校衛生看護専攻科卒
(土佐市用石)



上岡 由季さん
准看護婦
高知県医師会准看護学院卒
(高知市秦南町)



平泉 清子さん
看護ヘルパー
愛知県立一宮西高校・高知県理美容学校卒
(高知市比島町)



前田 展和さん
月曜日の夜警に来て下さっています。
(春野町弘岡)

〈退職〉ご苦労様でした。

横田 富美さん	(臨床検査技師)	8月
中平 千草さん	(准看護婦)	9月
林 道子さん	(看護婦)	9月
戸梶幸次郎さん	(運転手)	9月

表紙絵説明「漁(すなどり)」

今回の表紙絵は当病院外科へ外来で来ておられる友行満俊さんが今年の県展洋画の部に入選された作品です。

— 編集後記 —

今回は原稿がふえて8頁になりました。しかし、原稿集めには苦労していますので、どうぞ積極的なご協力をお願いいたします。